

平成 27 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけて、前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。また、期間の後半は、北日本を冷涼な高気圧が通過したため、北日本から東日本を中心に低温となり、8 日は北東からの冷たく湿った気流の影響で関東甲信地方で、雪の降ったところがありました。沖縄・奄美では、期間の前半は、日本の南海上の暖かい高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、期間の後半は前線の影響で曇りや雨となりました。

中旬は、日本付近を低気圧や前線が短い周期で通過したため、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。期間の前半は、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、13 日は清水（高知県）で 1 時間に 114.0 ミリの猛烈な雨が降るなど、局地的に大雨や突風が発生しました。また、19 日から 20 日にかけて南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、所野（沖縄県）で 1 時間に 130.5 ミリの猛烈な雨が降り、沖縄・奄美で大雨となりました。

下旬は、北日本から西日本にかけて移動性高気圧に覆われて晴れて気温が高くなり、大陸から暖かい空気が流れ込んだ北・東日本では気温がかなり高くなりました。また、北日本、東・西日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。一方、沖縄・奄美では周期的に前線の影響を受け、天気は数日の周期で変わりました。また、30 日には、九州南部では上空に寒気を伴った低気圧の影響で大気の状態が不安定となったため、局地的に猛烈な雨が降りました。

月平均気温は、西日本でかなり高く、北・東日本と沖縄・奄美で高くなりました。釧路（北海道）で 4 月の月平均気温の高い方からの 1 位の値を更新しました。また、月降水量は、西日本日本海側でかなり多く、北日本と東日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美で多くなりました。米子（鳥取県）、清水（高知県）で 4 月の月降水量の多い方からの 1 位の値を更新しました。月間日照時間は、東・西日本太平洋側ではかなり少なくなり、西日本日本海側では少なくなりました。その一方、北日本日本海側では多くなりました。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値（注）より 6 ポイント高い 77%でした。各地方の適中率は、九州北部地方と九州南部地方を除き高くなり、特に東北、関東甲信、北陸の 3 地方で 10～13 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 2.6 となりました。各地方の予報誤差は、沖縄地方を除く全ての地方で例年値以下となりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.9 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値以下となり、特に東北、北陸、近畿の 3 地方で 0.5 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の週間天気予報の利用にあたって】

6 月は、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、平年では上旬から中旬頃にかけて西日本・東日本および東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

週間天気予報からわかる向こう 1 週間の天気や気温の傾向を、農作物管理等に役立ててください。